



紀平真理子のオランダ通信

第17回

イシグログループ 主催のオランダ 施設園芸視察研修(2)

プロフィール

1985年、愛知県名古屋市生まれ。南山大学外国語学部スペインラテンアメリカ学科卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてにおいて実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。

パブリカの VD Holland社

視察研修でオランダ中西部の
Hoek van Hollandにあるパブリカ
生産者のVD Holland社を訪問し
た。この施設はもとも別のトマ
ト生産者のものだったが、2013
年10月にトマトの値崩れによって倒
産したことを受け、同年12月にVD
社が施設ごと購入した経緯がある。
現在、オランダでは住宅不動産価格
の下落と同様、温室の購入価格も下
がっているという。

VD社はvan Dijk兄弟による
家族経営で、オランダ北部の
Wervershoof市に10ha、今回訪問し
たHoek van Hollandに8haの計18
haの圃場を持つ。同社は、オランダ
のパブリカ生産者4社が共同で品質
コントロールを行なうPatriCoと
いう組織に属している。この組織を
通じて世界中にパブリカを出荷して
おり、日本へは端境期の夏季のみ赤
色と黄色のものを輸出しているそう
だ。ちなみに、4社の施設面積を合
計すると65haで、うち35haが赤色、
12haが黄色、そして緑色とオレンジ
色が9haずつ生産されているが、V
D社では赤色に特化している。
12月に定植し、収穫は年明けの
3月から4月に始まって11月まで実

施する。冬季は日射不足で生産が難
しいため、翌年への準備期間にして
いる。訪問した8月は上部のパブリ
カ果実のみ収穫しているのが印象的
だった。下部の果実については品質
が劣るとともに、作業効率を下げな
いために収穫しないそうだ。という
のは同社では出荷価格が8月でキロ
25セント、年平均でも同50セントと、
オランダでは野菜の値崩れが起こっ
ている。それでも彼らはこの現状を
前向きに捉えており、諦めていない。
次のような取り組みを通して状況の
打開を図ろうとしている。

- ① 地熱エネルギーを同業他社とシェアしてエネルギーコストを削減する。
- ② ポーランド人を雇用し、労働コストを下げる。
- ③ 高値で売れるマーケットを選定する。

こうして生産コス
トを下げた利益を追
求し、生き残りに全
力をかける。その生
産コストを下げる方
法の一つとして、生
産性の向上と効率化
のために複合環境制
御コンピュータを導



高さ7m40cm、面積8haの温室を8パートに分けて制御している。



労務管理端末Nomadですべての作業員の作業効率を把握する。

入している。同社では、オランダで
約40年間使用されて進化を続けてい
るHoogendoorn社(注・オランダ
でのシェアは30%、日本での総代理
店はイシグロ農材株)のProという
複合環境制御盤でハウス内外の計測
値や設定値をベースに冷暖房や換気
窓、カーテンでの温度調整、かん水
を制御し、生産効率を上げている。
このシステムでは省エネを意識した
制御の設定もできるそうだ。また、
労務管理端末のNomadを用い、作
業員の作業効率の把握や時給に反映
して効率化を図っている。
VD社の生産者からは、いかなる
状況でも突破口を模索すると同時
に、設備投資をしたことに満足せず、
使用する側がシステム導入の目的や
目標を明確にし、その目標を達成す
るために設備を使用することが大切
だということを学んだ。